

被災建造物の復旧性能評価研究委員会
H18年度 「WG3：補修・補強後の性能評価」 第4回議事録

日時：2006年5月18日（月）13:00～15:00

場所：（社）日本コンクリート工学協会 会議室

出席者：小林（幹事：JR 東日本）、塚（土木研）、勝俣（大林組）、滝本（清水）

（欠席者：鈴木（福井工大）、宗（ジョーホント）、伊藤（中部大）、河野（竹中工務店）、藤永（神戸大）

資料

No.3-4-1 第4回被災建造物の復旧性能評価研究委員会 WG3 担当用語の定義（案）（小林幹事）

No.3-4-2 再使用の可能性を判定し、復旧するための震災建築物の被災度区分判定基準および復旧技術指針（勝俣委員）

FS-18-1-7 H18年度「WG3：補修・補強後の性能評価」活動（案）（委員会への提出資料）

【議事内容】

1. No.3-4-1 第4回被災建造物の復旧性能評価研究委員会 WG3 担当用語の定義（案）（小林幹事）、No.3-4-2 再使用の可能性を判定し、復旧するための震災建築物の被災度区分判定基準および復旧技術指針（勝俣委員）

- ・ WG3 担当の用語について議論した。
- ・ 勝俣委員からの資料（No.3-4-2）を参照しながら、No.3-4-1 の資料の修正を下記の通り行った。

(3) 「靱性設計」：構造物に必要な強度と塑性変形性能を~~保証~~考慮する設計法

(6) 「緊急措置」：復旧または解体・撤去までの間、被災した構造物およびその周辺の安全性と機能性の確保・向上のために一時的に行う対応。広義には、前記の前に行う被災度判定も含む。

- ・ 修正したファイルを WG3 の各委員に送付し、ご意見をいただき、WG3 としての最終案を確定する。

2. FS-18-1-7 H18年度「WG3：補修・補強後の性能評価」活動（案）（委員会への提出資料）

- ・ WG3 の活動（案）について、議論した。
- ・ 補修後の剛性評価については、コムスエンジニアリングの土屋さんが補修後の性能評価をファイバーモデルで解析を行った例があり、その中で剛性についても検討していた。
- ・ 補修・補強後の構造物の照査で、経済性を指標としたときのイメージを議論した。検討のイメージとしては、地震シナリオ+イニシャルコスト（降伏震度を大きくして地震の損傷を変化）+損傷後の補修費で評価することを考えている。計算には、簡易なソフト（例えば、TOTAL-LCC、（株）インフォメーションサービス社製）を用いることを考えている。

- ・ 具体的な検討内容を今後、WGの中で議論する。
- ・ 勝俣委員より建築のPMLについて、建築では各建設会社が独自のPML算定法を行っていること、勝俣委員が所属する会社では、物件の規模に応じてPMLを算定する方向で、PMLの簡易算定法について案を検討中であるとのこと。

3. その他

- ・ 委員会で提示された報告書の目次（案）をもとに、WG3としての具体的な内容を詰めていく必要があるので、7月に次回WGを開催する。WG開催時期にかんしては、今後、調整する。